続発性リンパ浮腫のセルフケア継続支援

関連するSDGsの国際目標

人間看護学部　人間看護学科　　准教授　　荒川　千登世
研究分野：成人看護学　臨床看護学　看護教育
ＨＰ：　http://www.nurse.usp.ac.jp/seijin/

続発性リンパ浮腫は、乳がんや婦人科がん（子宮・卵巣）などの術後におこり、一度発症すると難治性で、疼痛、関節可動域の制限などによる日常生活動作の困難、仕事の継続困難、服装の変更など、生活全般にわたって支障をきたします。治療としては外科的治療（リンパ管静脈吻合術）と保存的治療（スキンケア・リンパドレナージ・圧迫・運動・日常生活での注意）がありますが、根治的治療法はなく、できるだけ早期にケアをおこなうことや軽減した状態を維持し悪化させないための「セルフケアの継続」が大切になります。セルフケア継続支援として、「浮腫の状態の見える化」「カンタン＆効果的なセルフケア」「リンパ浮腫とセルフケアの理解（知識・技術）」などに取り組んでいます。



＜特許・共同研究等の状況＞
浮腫評価装置：特許第5953490号（株式会社タニタ、京都大学、滋賀県立大学）
リンパ浮腫外来、自己管理支援プログラムソフトの開発、圧迫着衣・ウエアの開発、など（京都大学、大阪医科大学、企業など）